



言葉の大切さを読書から

人間は全ての学びを言葉を通じて行っています。子どもは言葉をまず「音」を通して知ります。大人の言葉を聞くことで、少しずつ聞いた言葉の意味が分かるようになり、やがて自分が伝えたいことを言葉にして、他人に伝えられるようになります。そして次に「音」を、紙に書いた「文字」に置き換えて「読む」ことができるようになります。

「言葉の学び」の原点にあるのは親子の会話です。大人が子どもに話す際、子どもの語彙を増やすという意味でも大人が多彩な言葉を用いることが大切です。しかし、会話だけでは使われる語彙に限界があります。より多くの知識を身に付け、より深く考えられる子どもになるためにも、「本を読む＝読書」が必要になります。「読書」を通じて、語彙を増やしたり、表現を学んだりすることは、子どもを大きく成長させてくれます。

(東洋経済参照)

読書は、子どもたちが身に付けた、より多くの言葉を通して、さまざまな世界を知り、自分の知識として身に付けていきます。また、読書は、言葉を通して想像力を育んだり、遠い世界に思いを馳せたりします。

読書の重要性を多くの大人が感じてはいますが、なぜ重要なのか考えてみると、子どもたちへの本の与え方が変わってくるかもしれませんね。





Hello! 学校図書館 東月隈小学校

昨年末、博多区の東月隈小学校に訪問しました。当日は寒い日でしたが、校長先生に笑顔で迎えてもらい、東月隈小学校の読書活動の推進について詳しく話をいただきました。さまざまな活動から、読書の大切さを学校経営に生かされているのがよく分かりました。



図書館内の地図、約束など、図書館を子どもたちが気持ちよく使える工夫が掲示されていました。また、自分の読みたい本を探することができるように「本のぶんるい」を、低学年にもわかりやすく示してありました。

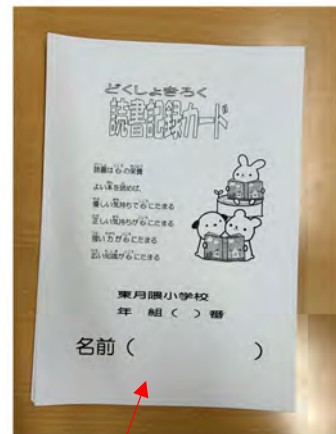
さらに、図書館中央には、じゅうたんの上にカラフルなかわいい椅子を置き、リラックススペースが作られていました。図書館が明るく感じられました。



配架の工夫



面出しの配架は、子どもたちの読書意欲をかき立てます。また、テーブルクロスが敷いてあると温かい雰囲気がしますね。表示板は、安全面から、角が丸くなっています。

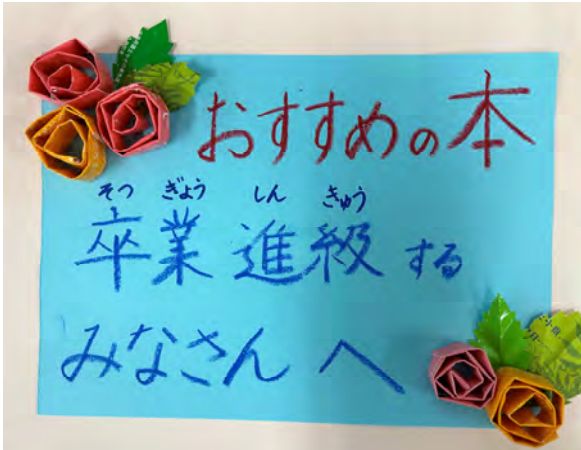
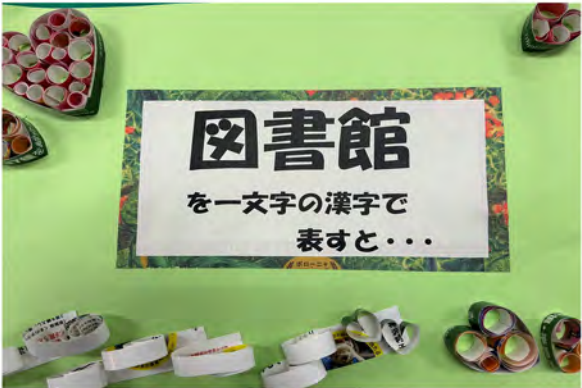
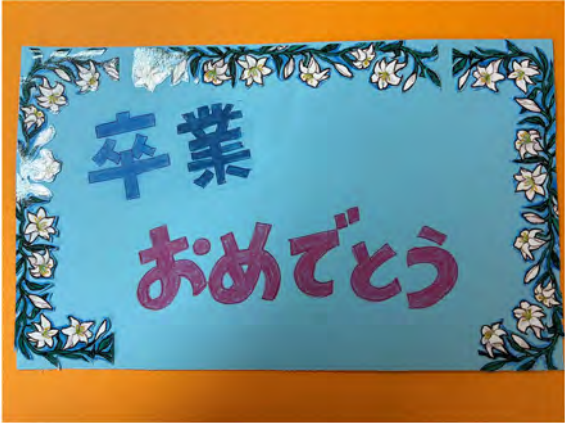


学年ごとに並行読書がしやすいように配架されています。教科書で学習した同じ作者の本を見つけたときは、手に取って読みたくなりますね。また、読書記録カードには、自分の読んだ本が記録されています。読書の足あとは大切です。

本の帯を使った2・3月の掲示・展示



卒業前、読書は新しい世界への扉を開けてくれたり、不安な気持ちを和らげてくれたりすることでしょう。卒業にちなんだコーナーをぜひ作ってみましょう！





3月の人・もの・こと

3.3 ひな祭り

古代の中国で邪気をはらうために桃の木の花咲く水辺に集まって「流水曲水の宴」を行ったことが起源とされ、「桃の節句」といわれます。女兒の健康と成長を願い、お雛さまや調度品を飾るようになったのは江戸時代になってからです。

3.8 国際女性デー

アメリカの女性社会主義運動に端を発し、女性問題に関わるあらゆる問題に取り組んでいこうと、1977年に国連総会で「国際女性デー」（3月8日）が決議されました。女性の権利と世界平和に関するさまざまな催しが行われています。

3.27~4.9 絵本週間

絵本は子どもが初めて出会う本です。心を豊かにし、幸せにする力のある絵本。アンデルセンの誕生日である4月2日「国際子どもの本の日」をはさんで2週間は「絵本週間」です。子どもから大人まで絵本に親しみましょう。

水木 しげる (1922.3.8~2015.11.30)

第二次世界大戦中ラバウルで左腕を失い、復員後いくつかの職業を経て紙芝居作家となります。『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』を世に送り出し、『ゲゲゲの鬼太郎』に出てくる多くの妖怪の名付け親になっています。

金子 みすゞ (1903.4.11~1930.3.10)

山口県生まれの童謡詩人。

代表作『大漁』『土』『露』『わたしと小鳥とすず』などがあります。常に小さいもの弱いものを優しい眼差しで見つめた作品が多く、没後50余年に未発表の作品が発見されました。

アンネ・フランク (1929.6.12~1945.3.31?諸説あり)

第二次世界大戦中に『アンネの日記』を書いたユダヤ人少女。ドイツの収容所に送られ15歳の若さで亡くなりました。隠れ家での約2年間の暮らしを綴った日記は戦後、父親のもとに届き1947年にアムステルダムで出版されました。

【あとがき】2月、如月（きさらぎ）の意味や由来は諸説ありますが、衣更着（きさらぎ）という文字から、厳しい寒さに備え重ね着をする季節、衣を更に重ねるという意味があるようです。寒さと暖かさを繰り返しながら、着実に季節は春へと進んでいます。卒業式の「呼びかけ」が「春 はる」という言葉で始まったのを思い出します。 【足立】



今月は、ちっちゃなボタンたちが個性豊かなボタン人生を語る愉快なお話を紹介します。

『お皿のボタン』

たかどの ほうこ／作・絵 偕成社 2007年 ¥1,296(税別)

< お勧め年齢 >

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆

高校★☆☆ 一般★☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

< 本の紹介 >

高橋家の飾り棚の上にある、平たいお花のような1枚の白いお皿。そこでは、取れたボタンたち(中にはボタンでないものも混じていましたけどね。)がにぎやかに暮らしています。小さなふち飾りのついた高級ボタンのホワイト夫人、碇の浮き彫り模様のある金ボタンの船長、大きなくるみボタンのうぐいすばあさんや、なぞの黒岩ジョー…。そんな個性豊かなボタンたちが語る、なぞとロマンと冒険うずまくボタン人生のお話です。

< 子どもに手渡す時のポイント >

皆さんの家の片隅にも、取れたボタンなどを入れた小瓶や缶が置いてあったりしませんか?なかには、どこで拾ったのか分からないボタンが紛れていたり…。そんな身近なボタンたちが、奇想天外で愉快な身の上話を語り合います。『まあちゃんのながいかみ』や『へんてこもりにいこうよ』シリーズ等でおなじみの、たかどのほうこさんの作品と言えば、関心を示す子もいるのではないのでしょうか。一話一話が短いので、子どもたちの朝読の時間にも最適です。

『北海道新聞』連載のお話をまとめたもので、「もとが新聞ということもあり、子供の人と大人の人、両方に向けて書きました。」という作者の言葉通り、子どもたちよりちよっぴり人生経験豊富な大人の方にも楽しんでいただけること請け合いです。ちっちゃなボタンたちのでっかいロマンあふれる味わい深いボタン人生、もしかすると私にも意外や意外の新しい第二の人生が待っているかも?なんて想像してみたくなるかもしれませんよ。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801